

日本の野生動物は減っている？ 増えている？
Are Japan's Wild Animals Decreasing? Are they
increasing?

(この70年くらいで in these 70 years)

日本でも数多くの哺乳類が絶滅している

Many mammals are extinct in Japan.

- 人里近くに生息する動物で、絶滅したものが多いと言えそう

Many of these animals live near human settlements



ニホンオオカミ・エゾオオカミ 1900年頃 絶滅
Japanese wolf, extinct around 1900

写真 wikipedia



ニホンカワウソ 絶滅 1970年台に四国で最後の記録

Japanese river otter, Extinct, last recorded in Shikoku in the 1970s.

写真 wikipedia



ニホンアシカ Japanese sea lion
extinct around 1900

写真 wikipedia



写真 wikipedia

トキ 1998年に野生絶滅 → 野生復帰が成功
crested ibis, Extinct in the wild in 1998



コウノトリ 日本では1970年台にほぼ絶滅する
ごく近い将来、野生絶滅のリスクが極めて高い
Stork, nearly extinct in 1970's

写真 wikipedia

増えた日本の動物

増えた動物も多い

- 戦後くらいを基準に考えることが多い
- そのあたりから、定量的なデータがある
- 1950年頃は日本の中・大型動物が最も減った時期
(最も減った時から比べると、増えるのは当然かもしれない)

「増えた」という場合に、このようなことには注意が必要。
必ずしも、100年前、200年前に比べても増えているとは限らない。
非常に減ってしまったのが「ある程度回復した」可能性もある

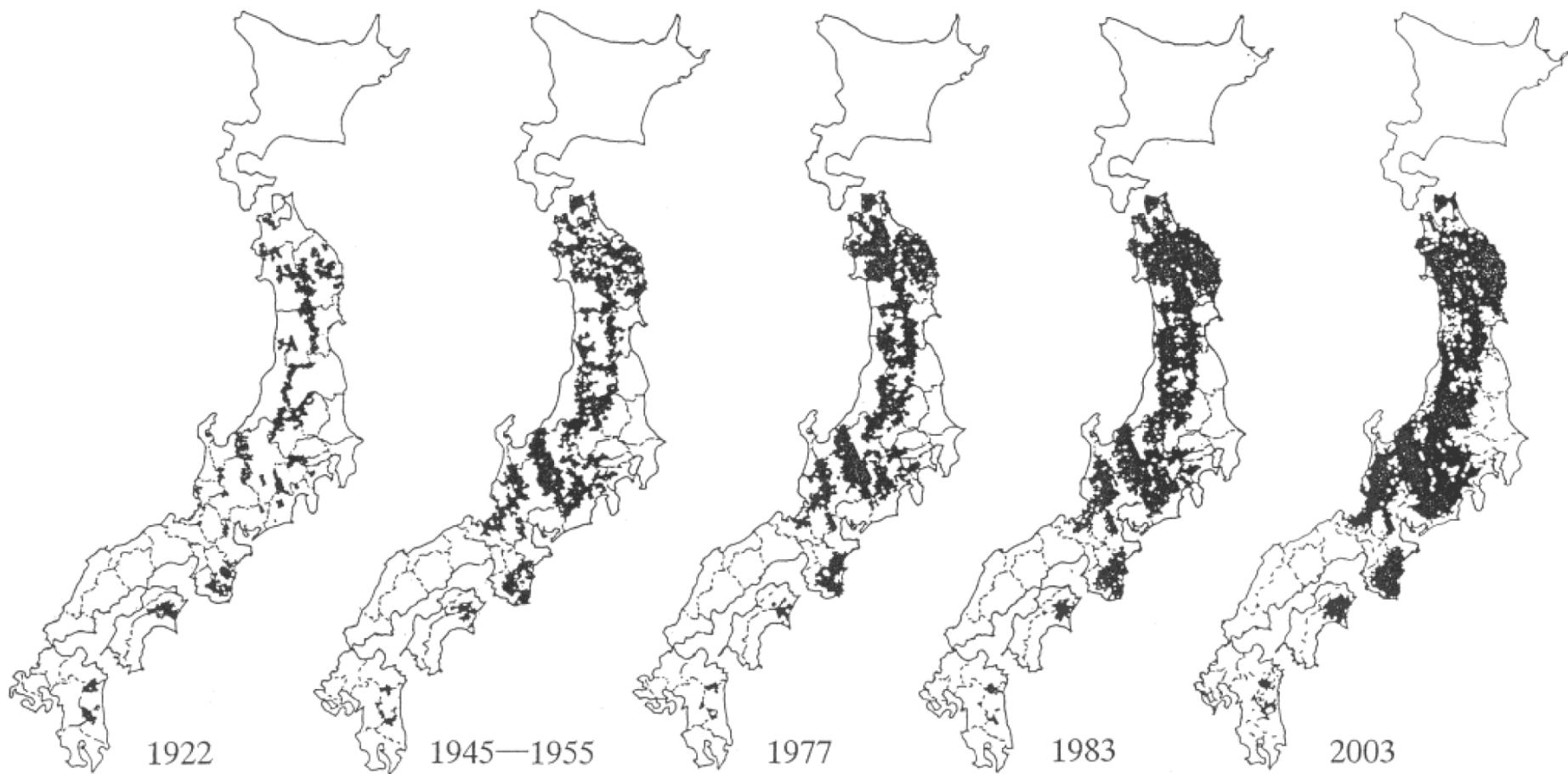
カモシカ



カモシカ

- 1925年 狩猟獣から除外される この時、すでにかなり少なかった
- 1934年 天然記念物
- 1955年 特別天然記念物
- 1959年 カモシカ密猟の一斉取り締まり 捕獲がされなくなった

- 1970年台後半 生息地の拡大
農作物、幼齢造林木への被害が出る
- 1979年 被害防除のための捕獲を許可



カモシカの分布域の変化

環境省(2010)特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン より

カモシカ

- 狩猟獣として経済的な価値が高く、銃器の高性能化などでかなり減少した。
- 一時期非常に減って「幻の動物」と言われたが、狩猟の規制などで回復した。
- 山地に適応しており、落葉樹林の山が健全であれば、生きていける
- ナワバリが強いため、シカほどには高密度にならない

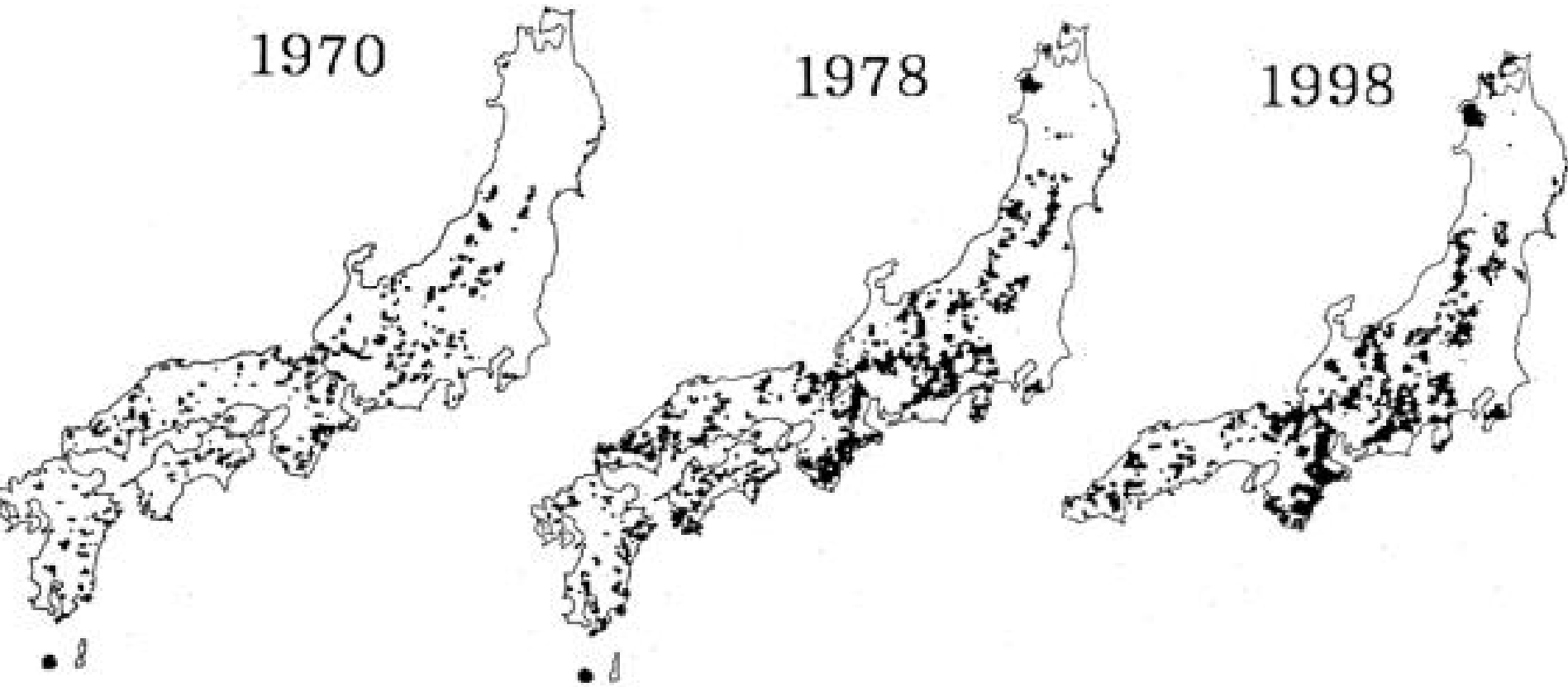
カモシカの特徴

- 単独で暮らす
- 排他的なナワバリを持つため 高密度化しにくい

ニホンザル Japanese monkey



ニホンザルの分布



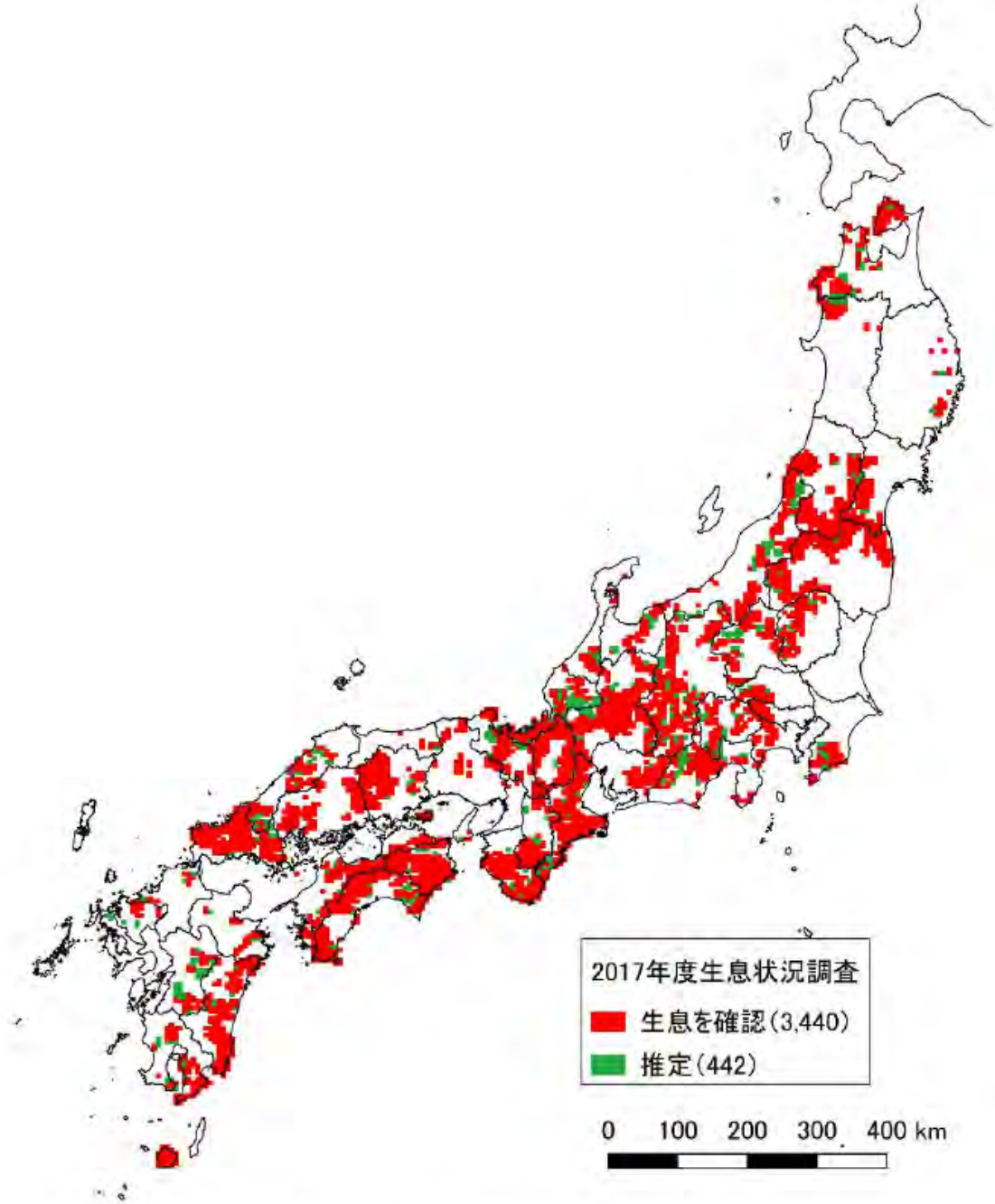
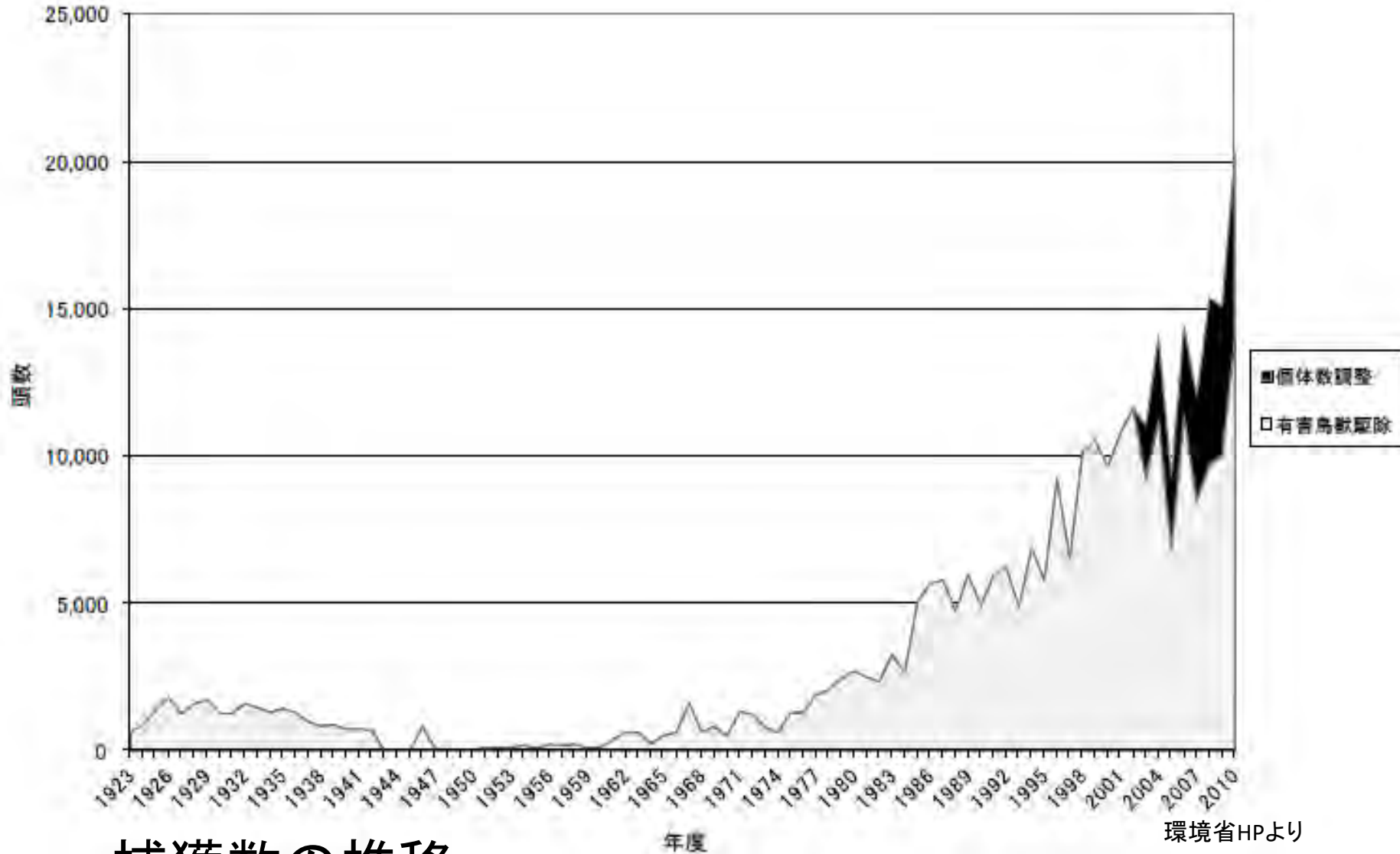


図1 ニホンザルの群れの分布状況 (2017年 暫定版)

ニホンザル 個体群



捕獲数の推移

環境省HPより

(ところで) 個体数の推定に狩猟数？

- 山の中にいる動物を数えるのは非常に大変
- 一方、捕獲数は非常に正確
- 努力量が一定であると仮定
- 沢山いると沢山とれる、少ないとあまり取れない という関係

ニホンザル

- 1947年 狩猟獣から除外
- おそらく1950～1960年頃にはかなり減っていた
- 1970年代からサルの有害駆除が増えていく
- 1998年以降は年間1万頭以上が
2010年以降は年間2万頭以上が全国で駆除されるようになった

ニホンザル

- 森林が主な生息地 山地にも適応
- 山／森があれば生息できる
- 農作物被害や生活被害が問題になりがち

- コドモを生み始めるまでが5年以上かかり、出産間隔も2年以上増加のスピードは遅い。条件が良くても増えるのはゆっくり。

種子島で絶滅したニホンザル

- 1950年頃まではいた。
- 山が低い 標高が300m未満
- 生息地である山がないと、生き延びられないことがある



国土地理院地図
2024/5/23アクセス

ニホンジカ Japanese deer



ニホンジカ

- 現在、最も増えすぎが問題視されている

ニホンジカ

- 縄文の遺跡からも良く出てくる
- 江戸時代に取りすぎによる地域絶滅もあったと考えられている

- 1878年 北海道でエゾシカ猟の一部規制
- 1890年 北海道でエゾシカ猟の全面禁猟
- 1892年 1歳以下のシカの捕獲禁止措置
- 1901年 シカの禁猟が解除
- 1918年 狩猟獣に指定
- 1919～1947年 狩猟期間の短縮
- 1925～1926年 メスジカの狩猟獣からの除外
- 1940年台 戦中、戦後の混乱期には乱獲

ニホンジカ

- 1948年　メスジカが狩猟獣から除外
 - 1950年　オスジカのみが狩猟獣とされた
 - 1994年　一部メスジカ狩猟獣化を許可
- 現在も狩猟の規制は弱くし、狩猟を推進している

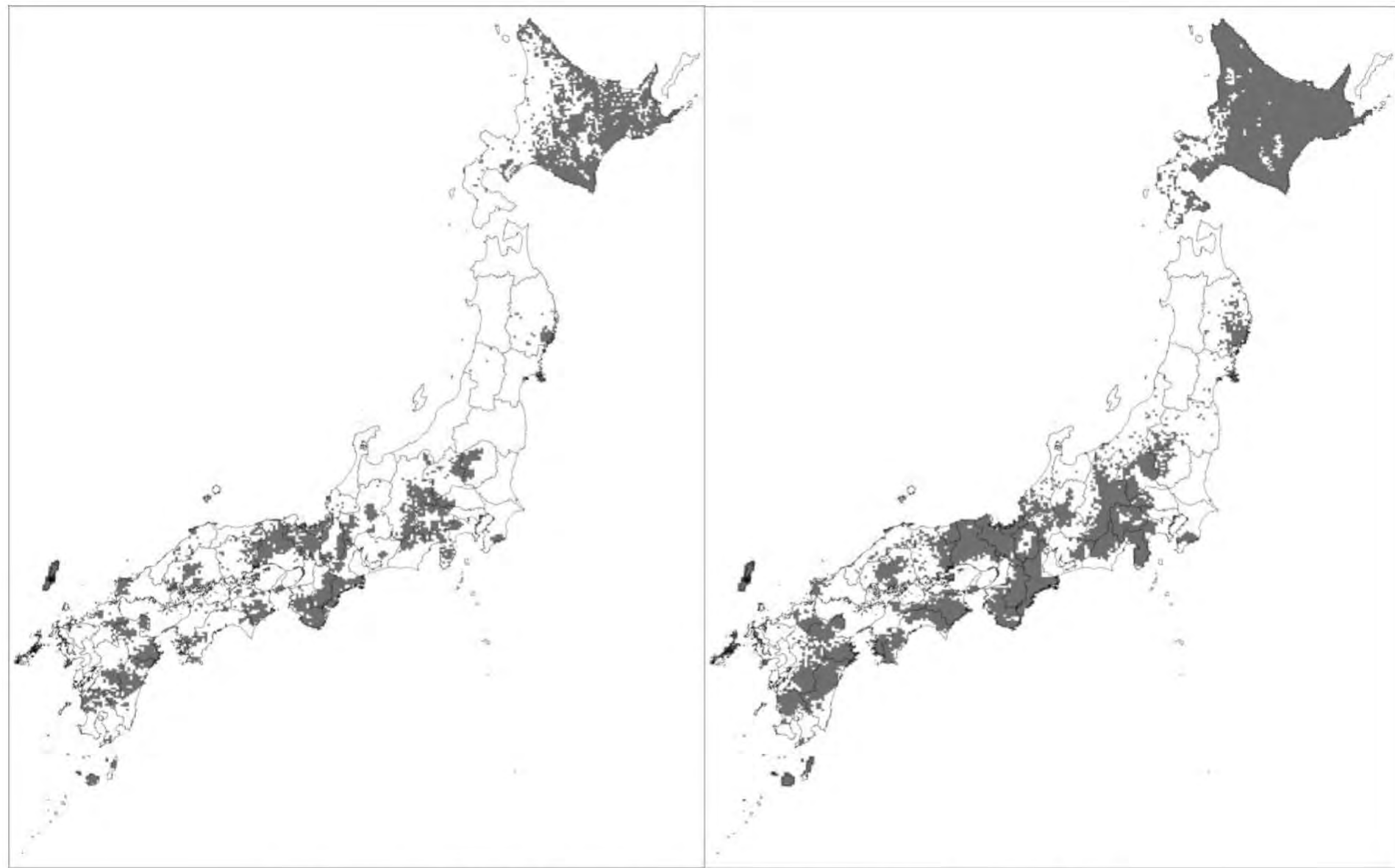


図1 シカ分布域の変化 (左 1978 年、右 2003 年)

環境省HP 野生動物の保護および管理 シカ 種別編

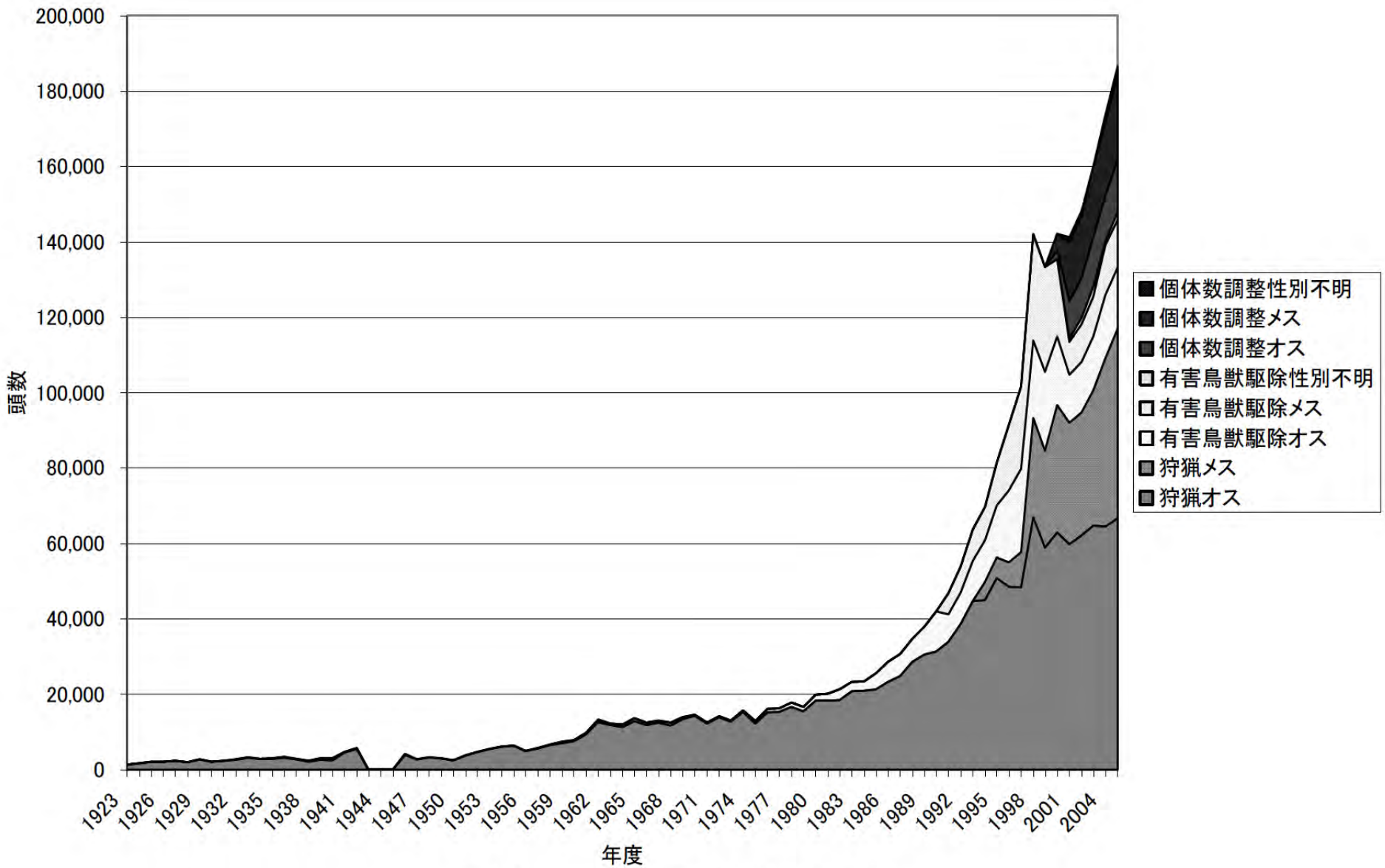


図3 シカ捕獲数の動向

シカの特徴

- 群れを作る(沢山の個体が一緒にいる、排除しない) 高密度化しやすい
- 植物はかなり何でも食べる。植物を“食べ尽くす”こともある。
- 農作物被害の他、林床の植生の破壊など生態系への被害も問題視され始めている。

イノシシ



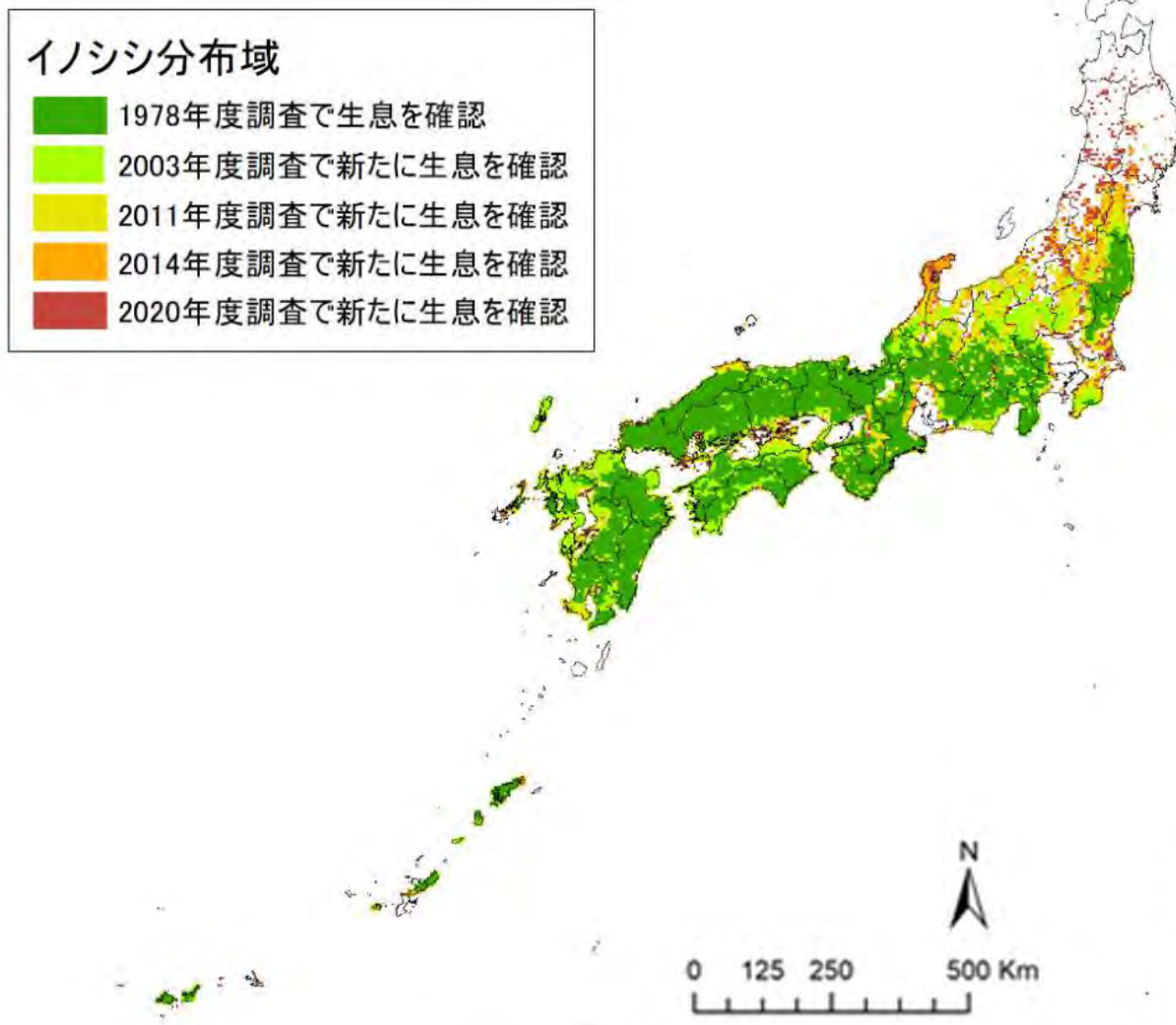


図 I-1 イノシシの分布変遷

環境省報道発表資料 URL : <https://www.env.go.jp/press/109239.html>

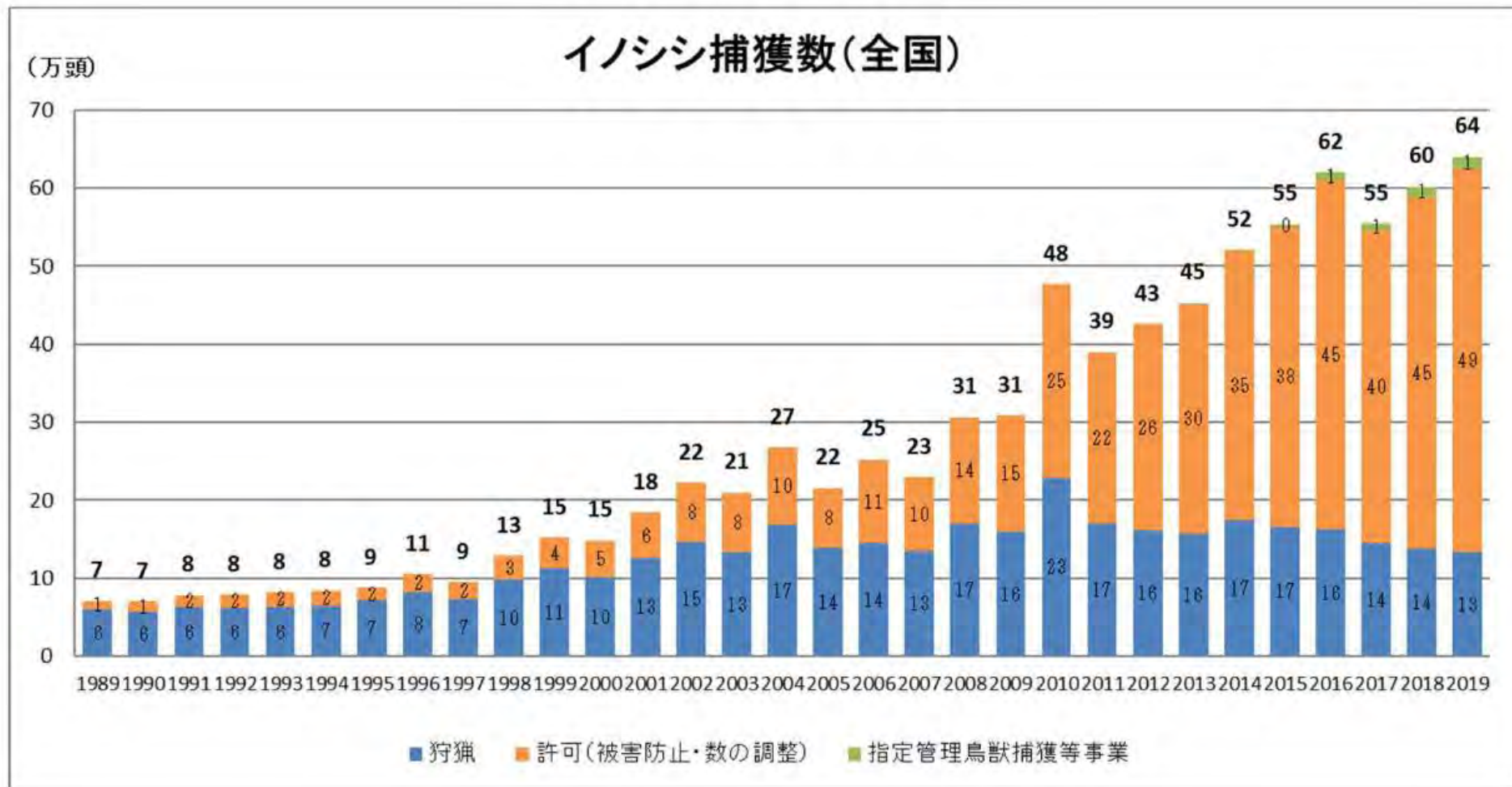


図 I-3 イノシシの捕獲数

鳥獣関係統計、環境省ホームページデータより作成

URL : <http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs4/sokuhou.pdf>

イノシシの特徴

- 1回に4-5頭のコドモを産む 条件が良ければ、急速に増える



イノシシの特徴

- 狩猟の対象として好まれる
- 力が強く、柵を壊して畑に侵入する

情報が少ない

- ウサギ
- キツネ
- タヌキ
- アナグマ

など、中型であまり狩猟されない動物は情報が少ない



ノウサギ

- 情報があまりないが、各地で減少傾向にあるかもしれない
- ウサギが好む野原が減少していることが原因？



キツネ(キタキツネ)Fox ©杉浦秀樹 2019

キツネ

- 情報があまりない
- 減少しているかもしれない

減った動物もいれば増えた動物もいる



野生動物の増減

- 増えた／減った 少なくとも2つの時点での数の変化を知ることが必須。
- 動物の頭数の把握は容易ではない。そもそも情報が無い場合もある
- 基準となるのが、動物が非常に減った頃であることも多い
 - それより前は、現在と同程度に多かったかもしれない
その場合に、現在の数が「多い」と言えるのかは、
慎重に考える必要がある

日本の動物の増減

- 人間による開発の影響は大きい
 - 「山」に住めるものは存続している種が多い
 - 人の活動域に生息しているものは、絶滅したり大きく減少する傾向
- 狩猟の影響は大きい
- 里山のような人為的な環境を好む種も、影響を受けている可能性